

被災地の子どもと教職員へ、学校と教育の復興へ、全国から支援と激励を！

東日本大震災支援ニュース

第 2 2 号

全教・教組共闘 東日本大震災対策本部

2011 年 7 月 6 日

震災救援募金、自治体訪問－岩手県

「長い目で支援お願いしたい」

教職員の奮闘に敬意も

全教・教組共闘は、被災自治体を訪問し、全国の教職員から寄せられた震災復興支援募金を届けています。6月30日（木）、岩手県の自治体を北村佳久委員長と長尾ゆり副委員長が訪問し、岩手県の教職員の会の皆さんと岩手私教連の工藤良幸副委員長が同行しました。

どの自治体でも、「学校の復興と子どもの教育に役立たせていただく。いま、子どもたちの生活と心のケアに力をつくしている。先生たちは本当によく頑張っている。先生たちを行政が支えなければ。」と話されていました。いっぽう、被災地が頑張っている中で、「国は何をしているのか」、「政争にあけくれている場合ではない」という怒りの声が聞かれました。

岩手県「80数名の孤児救いたい」

岩手県教育委員会は震災遺児のための基金「岩手の学び希望基金」の制度化を進めています。その一部にと募金を届けました。対応された菅野洋樹教育長は、「80数名いる孤児を小学校から大学卒業まで援助する給付型の奨学金制度を整えたい。遺児まで広げ、貧困の連鎖が起こらないようにしたい。また、心のケアに力を入れて、心のケア講習会も開いている。母親が亡くなり、先生の後をずっとついて回る子どもに対して、ただ抱きしめてあげるだけでいいんだと。サインを見過ごさないことが大切。阪神淡路大震災の時も、3、4年してから現れたと聞いている。長期の対策が必要。また、子どもの健康対策も必要。ガレキの中の有害な物質やアスベスト、クロバエ対策も必要です。そして、先生たちも大変だ。3月11日以来、張り詰めた心で休まずに仕事を続けてきて、夏休みになってホッとした頃が心配だ。しっかり先生たちを支えようと教員加配も要求している」と語っていました。

宮古市「自治体だけでは解決できない」

宮古市教育委員会では、佐々木敏夫教育長が対応されました。「38校のうち15校が被災した。海岸部の学校だ。学校再開は3週間後になった。通学の安全と給食が保護者の一番の心配だった。先生たちの休みも必要だ。心のサポートチームが各校を回っている。しかし、大元の家庭の困難が子どもの安心を奪っている。職業がない、家がない、生活が壊されたことが、子どもの生活たちに影響している。自治体だけでは、解決できない」と語られました。

大槌町教育委員会では、鎌田精造学務課長が対応。この町は、津波のあと四日間火事が続いた町です。

「町長含めて33人の職員が亡くなった。以前から遺児基金をつくっている。小学生4校と中学校2校が使えなくなり、離れた中学校や青少年の家に行って授業を受けている。朝7時

過ぎから21便のバスに乗せて、移動する。運動公園に仮設校舎をつくる。来週から工事を始め9月上旬にはできる予定だ」。

山田町「子どものケアを最重点に」

山田町教育委員会では、岩船敏行教育長が対応。「防波堤はあっても、それをはるかに波が超えた。さいわい、子どもたちは学校にいて無事だった。親が迎えに来たあと亡くなった子がいて、小学生で死亡2名、不明1名。南小学校と北小学校は体育館を中心に避難所になっているが、来月には仮設住宅ができるので、解決する。と言っても、運動場に仮設を建てたり、運動場の半分は使わないようにと言っても工事車両がその半分に入ったり、いろいろあるが、ミニ運動会をしたりして地域の皆さんと仲良くやっている。家を流され、家族や仕事をなくした親のもとで子どもたちは育つ。子どものケアを最重点にやっていきたい。子どもたちは学校でワイワイ、避難所でワイワイ、仮設に移ったとたんに心の問題が表れるのではないか。教育費の親の負担は大きい。就学援助費など、長期にわたる援助が必要だ」。



釜石市「通学バスの経費、一日42万円」

釜石市教育委員会では、河東真澄教育長が対応。「直接届けられた義援金は、震災孤児に配分して残りは教育振興基金にする。被災した子どもたちは、これからが大変。親の収入、蓄えがない。今年は措置されても、来年が大変。長い目で支援をお願いしたい。先日も文科大臣が来たので、①仮設校舎（四校使えない校舎）の建設、②部分的に壊れた校舎の補修、③子どものメンタル・ヘルス支援、ソフト部分の援助 ④保護者の援助（仮設住宅に入ると、とたんにお金がかかる）の4点を要望した。通学の足を保障する問題も重要。いま、一日42万円通学バスにかかる。これが3年は続くだろう。

子どもたちの食も心配だ、今年度は給食費無償で行くが、来年度はどうなるのか。若いお



母さんの動揺も心配。虐待の可能性も出てくる。現場は精一杯。先生たちを休ませたい。とにかく、人を増やしたい。先生たちの不眠不休の姿を見て、地域と先生が近づいた。子どもと親と先生の気持ちが近づいた。しかし、過重負担すぎる。約90名が被災した。しかし、普通に勤務している。先生たちが本当に頑張っている。先生たちが息切れしないように支援したい。本当に全国の皆さんの支援に感謝している」。